

## 永遠のいのち

ヨハネによる福音 3:14-21

(そのとき、イエスはニコデモに言われた。)

「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。」

### 説教

この世ははかないものです。すべては変化してしまいます。たとえ今が幸せであってもそれは続きません。ほんとうの幸せとは、神の愛を受け入れ、命をいただくことです。

#### <人間の愛をはるかに超えた神の愛>

共にいることで、人を救う神。イエス・キリストをとおして、父なる神はキリスト者一人ひとりに手を差し伸べています。どんなに危機的な状況であっても、イエスは相手とともにいます。たとえ、相手が裏切りを働いたとしても。相手が敵になったとしても。決して諦めずにイエスはともにいます。イエスは、どんな相手ともいっしょに歩みます。それは、十字架につけられた

イエスの姿を眺めれば、よくわかります。徹底的にとともにいる神の愛情深い姿がイエスの十字架上の命がけの振る舞いをとおしてはつきりと示されています。

**（そのとき、イエスはニコデモに言われた。）「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。3:14-15**

だからこそ、イエスはニコデモに対して、あらかじめ十字架の秘義を示しました。どんな人であっても、イエスの姿をとおして示された神の愛情に気づくときに、そして徹底的にイエスとともに生きるときに神とともに生きることになるからです。

神の愛を知らずにいるとどうなるでしょう。神の愛ではなく、人間の愛をたよりに生きる人はどうなるのでしょうか。人間の力により頼む人たちはどうなるのでしょうか。自分の力を強めることで幸せをつかもうとする人もいます。また、自分の力が足りないことに気づいた人は相手の力に頼るかもしれません。しかし、その相手はほんとうに信頼できるのでしょうか。

人間の愛なんて信用できない、という人もいます。その人が強い人でうつろいやすい人間の愛に頼らないとするとなにを頼りにするのでしょうか。金に頼る？権力に頼る？もし、その人が弱い人ならば頼るものは何でしょうか。人間の善意に頼る？社会の善意に頼る？それらはその強い人、弱い人にとって慰めになるのでしょうか？救いになるのでしょうか。

しかし、神とともに生きる人は決して滅びません。

どんな相手の欠点や弱さをも包み込んで温める神の度量の広さの前では、人間は究極的な安堵感を得ることになります。そのなんとも言えないほどの喜びの状態に安らぐときに、人間は「永遠のいのち」を実感できます。

<神の愛の目的は、人間の救い>

**独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。3:16b**

わたしたち人間はひとりの例外もなく死んで滅びます。ここに人間の現実の不幸があります。幸せは続きません。そのうえ、わたしたち人間の愛は自己中心的で、変わりやすく、しかもしばしば相手を傷つけます。

ほんとうの幸せは、神さまの愛を知り、その愛によって愛することです。

ほんとうの幸せは、神さまのいのちを受けて、そのいのちによって生きることです。

#### <救いの条件>

**神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。 3:17**

わたしたち人間にとっての救いとは、ただひとつです。それは御子を信じて受け入れることです。

キリストの十字架による救いを受け入れる人は、もはや裁かれません。

キリストの復活による救いを信じる人の人生は死で終わりません。永遠のいのちが与えられています。

いつまでも変わらない幸せを受けるために、救い主イエス・キリストを信じ続けましょう。

-----